

開催日：2021年7月15日（木） 18:00～20:15

会場：Zoomによるオンライン会

参加者：阿部(桂)(46修S)、清水(49C)、吉平(50C)、佐野(62W)、関口(48K修)、伊藤(H15C)、石川(39C)、奥山(52E)、鶴岡(44M)、阿部(雅)(47修C)、二宗(46M)
四国支部より森口、中村、瀬尾、： 阿部(啓)(東海会員家族) 合計15名

鮎の友釣り と 阿波の徳島 ご案内

群馬工業会東海連合支部
「異業種交流会」

2021.07.15

吉平弘一(50C)



今回のテーマは、「鮎の友釣りと阿波の徳島のご案内」という内容で、吉平さんの発表である。吉平さんは名古屋で定年を迎え、そのあとは東京に帰り、故郷の徳島（上勝）を定期的に訪問している。今回は「徳島」と言う事で、四国支部の方や、東海会員の家族の方まで幅広い参加者であった。四国支部とは昨年三重県工業試験場見学にオンラインで参加の縁で今回の参加に結びついている。

吉平さんの話は、徳島のお兄さんが勝浦川のそばで、「罎アユと遊漁券の販売」を行っており、この手伝いに行った時の様子と、徳島の観光案内である。

鮎は苔を食べて生きているので、釣るのにも他の魚のように餌を付けた釣り方はできない。自分のテリトリーを侵略してくる鮎を追いかける特性を利用して、釣り糸に罎（オトリ）アユと針をセットして捕まえる「友釣り」の方法である。

この罎アユを養殖場から仕入れ、軽トラで運び、元気に生かしておくことが重要。運ぶ途中も酸素量を適切に保ち、タンクの中でアユが船酔いしないように気を配りながら運転。持ってきた鮎は、山や川のきれいな水を使い、エサはやらずにスリムに生かす。

四国の会員から、「四国は石の種類が多く、石の比重が大きい程良い苔ができる」ことを教えていただいた。しかし、ダムができ、水が濁り、苔が生えなくなり、アユの取れる所がだんだん減ってきている現状があり、自然環境の変化が身近に迫っている事をより感じさせられた。

6月1日より鮎釣りは解禁であり、前日から常連客が集まり場所取りしながら懇談する風景は、自然の中での人間らしさの繋がりの一風景である。



発表者の吉平さん



徳島の鳴門の渦潮、大歩危・祖谷の遊覧船・かずら橋、眉山からの眺めなどの自然豊かな見どころをパンフレットなどで紹介。

四国遍路や阿波の人形浄瑠璃などは徳島・阿波の国の伝統と文化が今なおしっかり引き継がれている様子を知ることができた。そのほかにも、阿波踊り、藍染、大塚国際美術館、日和佐のアオウミガメなどの情報も提供してもらった。

更に四国の会員から、阿波踊りは今年2日間だけ開催される（室内会場）最新の情報や、ひな人形の発祥の地とされている勝浦町の「ビッグひな祭り」、子供だけで花見に行く「遊山箱」などの古き時代からの良いところを十分に情報提供していただき、徳島に対する興味がより深まった。

最後の感想でも、徳島は「接待の土地」であり、人が良く穏やかで他の人を受け入れ易い風土であり、このような土地柄から種々の企業進出も増えている、などがあった。

** 幹事つぶやき一言 **

他の支部会員参加の「交流会」としての新しい姿も模索できた。こういう交流・連携を広げ、内容の充実と、支部活動の展開方法の勉強などにつながっていければと思っている。

幹事（二宗46M）記